

平成25年度  
私立学校初任者研修 中部地区静岡・山梨県研修会  
実施報告概要

静岡・山梨県の本年度初任者研修会は、8月16日（金）～17日（土）の2日間、静岡県裾野市の富士教育研修所で開催され、105名が参加した。

1日目には開会式に続いて、静岡県私学協会会長でもある聖隷学園、長谷川了理事長による講演「出会いと感化」が行われた。人生を変えた劇的な出会い、について迫力をもって語られた。

次に、学校法人駿河台大学、山口博伸常務理事による「教壇に立つ責任」は、教壇に立つ重みを自覚させる厳しい内容の講演であった。

続いて、静岡県舞台芸術センター文芸部スタッフの大岡淳氏を迎えての「他者と向き合うための教育演劇」が行わ



れた。日々の授業や生徒指導において、演劇性があることを意識するかどうかで、生徒の反応が変わってくるという。受講者は動きやすい服装に着替え、美しい姿勢や歩き方、そして「腹から声を出す」など、多くのことを実践した。



その後、参加者及び運営委員を交えて夕食を兼ねての経験交流会が催され、限られた時間ではあったが初任者にとってはコミュニケーションの場として有意義なひとときとなった。

2日目は、まず向上高等学校・自修館中等教育学校前校長の清水秀樹氏による講義「明日に役立つ生徒指導」が行われた。問題行動を起こす生徒への対応は、いつの時代でも教師達を悩まし続ける。そんな教育現場での実践的な事例への対応例を示され、受講者たちは熱心に耳を傾けていた。

次に、「先輩教師の話」では、講師の清水国際高等学校、漆畑夕子教諭が、自身の困難な体験を、いかにして克服していったか、を語った。

午後からは、教科ごとに分かれての分科会で、指導助言者のもと、熱心に意見交換がされた。

その後、閉会式では、当研究所の山崎吉朗専任研究員による研修会の総括を交えた閉会挨拶の後、参加者代表に修了書が授与され2日間の研修会は終了した。

